

北医療薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会

☎(0133)23-0301 直通・FAX
☎(0133)23-1211 大学代表
発行人 田中稔泰

印刷所 (株)正文舎

札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
☎(011)811-7151



目 次

巻頭挨拶 同窓会会長 田中 稔泰	3
第35回 北医療薬 総会および医療薬学セミナーについて	4
定年退職される先生をご紹介します	4
定年退職される先生からのメッセージ	
豊田 栄子 教授 生命物理科学講座・薬品物理化学	5
武智 春子 教授 人間基礎科学講座・化学	6
新任教授からのご挨拶	
飯塚 健治 教授 薬理学講座・病態生理学	7
村井 毅 教授 生命物理科学講座・薬品分析化学	8
支部だより 日胆支部 18期 中村 亨一 さん	
生化学教室 (現 分子生命科学講座・生化学)	8
卒業生からの近況報告	
第35期 薬剤学講座・薬剤学 石丸 竜大 さん	10
在学生からのメッセージ 薬理学講座・薬理学 小原 和 さん	11
薬剤師支援センター 将来ビジョン講座について	
第13期 北医療薬理事 井藤 達也	11
2015年度オープンキャンパスのご案内	13
第7期生卒業30周年記念祝賀会 高市 和之 さん	14
新入生オリエンテーションへの同窓会参加	15
お知らせ (北医療薬 総会ならびに懇親会のお知らせのご案内)	16
編集後記	16

巻頭挨拶

「創立41年目の入学式」

医療大の入学式には、毎年薬学部の同窓会長という立場と後援会役員という立場から参加させて頂いているが、今年の入学式はニトリ文化ホール（旧北海道厚生年金会館）で4月12日に挙行された。学外で行われたのは、おそらく初めてのことであろうと思う。昭和60年に音別キャンパスの教養部を当別キャンパスに移転・統合して以来、当別キャンパスの体育館で行われてきたが、平成25年にリハビリテーション科学部（理学療法学科・作業療法学科）が開設され5学部9学科となり、入学者が増えたことによるためだ。これだけの人数を収容できる大きな会場と良い日程を押さえることがなかなか難しく苦労されたようだが、今年は、入学後、定山溪での宿泊オリエンテーションが終了した後に、少し変則的ではあるが例年よりは遅い日程で行われた。来年度からは、この会場も工事に入り使えない事から札幌コンベンションセンターで行われると聞いている。最初で最後の開催場となったわけだが、何かと大学とは勝手が違う中、職員の方々の努力により何事もなく無事に終了した。入学式終了後、後援会総会開催のためにステージに上がり会場を見回すと新入生と保護者で会場は満席状態で圧巻、つくづく大きな大学になったなと思った。昨年、本学は創立40周年を迎えたので、今年は41年目の入学式となり、学外で行う新たな入学式形式がスタートしたことになる。40年前に1期生が道東の音別キャンパスで入学式を行ったわけだが、このように大学が発展し、大勢の学生とご父母が参加する入学式をその当時、誰が予想していただろうか。私も3期生であるので、同じように薬学部だけの入学式であった。1期生の際は音別校舎の階段教室で行われたと聞いている。自分たちの頃は体育館で行われたのではないかと思うが、記憶が定かではない。いずれにしても1学部160名程度の質素な入学式であったように思う。そ

北海道医療大学薬学部同窓会会長

田中稔泰



れが今や830名の入学式となった。この40年で確実に発展し、医療大全体では、専門学校も含め卒業生は18,000名を超えるまでになった。薬学部の卒業生も5,200名を超えており、同窓生諸氏が全国で活躍している。この他にも、歯科医師、看護師、社会福祉士、臨床心理士、言語聴覚士、歯科衛生士、それからリハビリテーション科学部の卒業生による理学療法士、作業療法士が新たに医療大卒業生として加わることになる。知育、徳育、体育の三位一体教育を理念とし、「新医療人育成の北の拠点」をスローガンに教育が進められてきており、成果も上げていることに敬意を表し、改めて薬学部の40年を振り返ってみたい。

■薬学部沿革

昭和49年2月	学校法人東日本学園大学設立
昭和49年4月	薬学部（薬学科・衛生薬学科）開設
昭和53年4月	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程開設
昭和57年4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程開設
昭和60年4月	教養部を当別町に移転・統合
昭和61年4月	薬学専攻科医療薬学専攻開設
平成6年4月	学校法人名称・大学名称変更（学校法人東日本学園・北海道医療大学）
平成8年4月	薬学部総合薬学科開設（学科改組） 大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程開設
平成18年3月	薬学専攻科医療薬学専攻廃止
4月	薬学部薬学科（6年制）開設
平成21年8月	北方系伝統薬物研究センター設置
平成22年4月	大学院薬学研究科生命薬科学専攻修士課程開設
6月	薬剤師支援センター設置
平成23年3月	大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程廃止

■歴代薬学部長

昭和49年4月	初代	木村 康一
昭和53年6月	第2代	久田 末雄
昭和56年4月	第3代	寺島 正直
昭和60年4月	第4代	高田 昌彦
平成2年4月	第5代	藤間 貞彦
平成6年4月	第6代	羽賀 正信
平成10年4月	第7代	渡部 博之
平成12年4月	第8代	南 勝
平成16年4月	第9代	黒澤 隆夫
平成24年4月	第10代	和田 啓爾

第35回 北医療薬 総会および医療薬学セミナーについて

平成26年7月20日(日)に北医療薬 総会および医療薬学セミナーが開催されました。医療薬学セミナーには講師として本学薬学部教授 大倉 一枝先生(生命物理科学講座・放射薬品化学)を迎え「薬剤師と放射線・放射性医薬品とのかかわり」と題し、御講演を頂きました。大倉先生は北海道の原子力防災対策委員も務められており、東日本大震災以降に関心が高まっている放射能や泊原発の話題、医療現場で使用される放射性医薬品やPET、SPECTなどの画像診断装置、最先端のアイソトープ内用療法、と多くの分野に関する内容をわかりやすくご紹介頂きました。また、先生の最近の研究成果である新しい腫瘍診断薬剤について一部をご紹介頂きました。参加者との活発な質疑応答も行われ、大変勉強にな



る時間となりました。

講演終了後には懇親会が開催され、大倉先生にもご参加頂きました。懇親会でも活発な意見交換がなされ、同窓生の近況をはじめとした様々な話題で参加者からは笑顔がみられ、大変盛況かつ和やかな会となりました。



定年退職される先生をご紹介します

平成27年3月を持ちまして、豊田 栄子教授(生命物理科学講座・薬品物理化学)、武智 春子教授(人間基礎科学講座・化学)、渡辺 秀樹教授(人間基礎科学講座・物理学)が定年退職されました。平成27年3月2日に先生方による最終講義が行われ、その後20周年記念会館食堂にて退職記念祝賀会が行われました。北海道医療大学の薬学教育への多大なご貢献に心より感謝致します。



定年退職される先生からのメッセージ

「薬学部での39年を振り返って」

生命物理科学講座・薬品物理化学 豊田 栄子 教授

この3月、本学で定年退職を迎えることができました。大学院修了と同時に薬品物理化学教室の助手として採用され、期待（20%）と不安（80%）とを胸に着任してから39年が過ぎ去りました。決して楽ではなかったけれど、教育と研究に明け暮れた日々は、私にとっては幸せで充実した時間でした。これまでお世話になりました北海道医療大学の卒業生および在学生の皆さん、教職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。4月からは、薬学教育推進講座の特任教授を拝命し、新たなスタートを切りました。できるだけ多くの学生の役に立ちたいと願い、物理系だけではなく、有機系や生物系の勉強も始めました。新入生のような気分で毎日を過ごしています。



私の39年間の思い出を振り返ってみます。恩師である山本 芳久先生から与えられた研究テーマは「コバルト錯体の合成と性質」でした。錯体化学についての知識の乏しい私のために、山本先生と神田助手とで行ってくれた誦読会では何度も悔し涙を流しましたが、大変有意義でした。上野 景平先生の名著「キレート化学」で合成法を覚え、論文を読むことで論文のまとめ方を知り、学会発表で不備な点を指摘されて追実験を行い、そしてやっと書きあげた論文が何を書きたいのかわからないと山本先生に怒られ、それでも必死に取り組んでいるうちに15年が過ぎました。この間の様々な貴重な経験が教育研究者としての私の土台になっているのだと山本先生には大変感謝しています。

山本先生の後任である谷澤 和隆先生からは、錯体化学を酵素化学の領域へと展開させる道を教えて頂きました。この時は研究室のスタッフが総替わりして、将来についての不安が募り、研究に対しても行詰まり感を覚えていた私にとっては一番苦しい時期でした。ここで、知念 千佐子助手と宮崎 浩光院生、陣内 敦司院生、高橋 優院生、高田 和輝院生が

「プロテアーゼ阻害剤の合成と阻害機構の解明」をテーマに、それぞれが精力的に実験を行い、私を助けてくれました。皆さん、ありがとうございました。

これまで研究を遂行するにあたり、学外の多くの先生にもご支援をいただきました。錯体の研究には欠かせない磁化率測定のための磁気天秤、電子状態を解明するためのX線光電子分光分析装置、構造解析のためのX線回折装置や固体NMR測定装置などは本学になかったため、大阪市立大の久保先生、北大工学部の金野 英隆先生、下川 繁三先生、理学部の佐々木 陽一先生、馬越 啓介先生をお願いしてご協力とご支援を頂きました。また、アルバータ大学のMichael James教授とKen Ng博士（現在はカルガリー大学の准教授）は、X線回折装置を見たこともない私がタンパクのX線結晶構造解析に挑戦したいという無謀な申し入れを快諾され、英語の苦手な私のために根気よく丁寧に指導してくれました。立場が逆転したとき、同じことを私にはできないだろうと思うと、両先生には感謝しきれないほどの恩を感じています。

谷澤先生から薬品物理化学教室を引き継いだとき、長いこと共同研究者であった関崎 春雄先生と伊藤 邦彦先生は他の講座に転出し、私一人になっていました。これからは教育を優先しなければならぬので、これまでのように自分自身で実験を行う時間はあまりとれないだろうと思い、北大理学部の田中 勲教授のもとに飛び込みで相談に伺いました。そこで、タンパクのX線解析学を専攻していた居弥口 大介さん(当時は大学院生)を助手として採用し、彼が田中研究室のX線回折装置を使って実験することを許して頂きました。居弥口講師は彼自身の夢のため、私より先に退職しましたが、彼とその後を引き継いでくれた岡田 知晃助手、教室配属の学生達のお陰で私のX線解析に対する夢が叶えられました。

学生時代、私は物理化学が好きではありませんでした。特に熱力学は苦手でした。だから学生が「物

理化学は難しい、嫌いだ」という気持ちがよくわかります。物理化学の講義を担当するにあたり、真剣に勉強し直しました。そして、自分が理解し難いところ、勘違いしやすいところは学生にとっても同じだと思い、講義資料を作り直しました。いかにわかり易く説明できるか、いかにして勉強してもらうか、を念頭において教育に携わってきました。退職するにあたり、最後の学生達にどうだった？と聞いてみればよかったと思いますが、自分で満足できる講義は最後までできませんでした。

本学の開学当時に着任し、1期生から関わって

るということが私の自慢でありました。「氷は水より出でて水よりも寒し」という諺があります。本学の卒業生がご活躍されているのを見聞きするのは、送り出した教員にとってはこの上なく嬉しいことです。私の経験から皆さんに何かメッセージなるものを残せるとしたら、「物事に一所懸命に取り組んでいると、誰かが助けてくれる」ということです。誰にも必ずチャンスが来ます。

薬学部同窓会の皆様が今後もご健康で、それぞれの方で増々ご活躍されることを祈念致します。

「退職にあたって」

卒業生のみなさん、お元気で御活躍のことでしょうね。私は本年3月31日に40年間勤めさせて頂いた北海道医療大学を定年退職いたしました。私は、昭和50年4月1日付けで東日本学園大学、薬学部、薬品製造化学教室助手として採用して頂きましたが、当時はまだ薬学部の校舎は建築中で、8月までは北大薬学部へ居候させて頂きながら、建物の完成を待ちかねておりました。

8月に薬学部の校舎が完成して、私は大学に通い出しましたが、一期生となる学生さんは、まだ音別の校舎でしたので、大学の中はガランとしていて大学という実感が持てませんでした。9月になって学生さん達が当別に移行して来ましたが、若い人達がスクールバスから降りて一斉に大学に入って来たときには、急に大学中にエネルギーが溢れて、やっと大学らしくなったという気持ちがしました。私自身も大学の助手になったんだという実感が湧いてきて



人間基礎科学講座・化学 武智春子教授

大変嬉しく思ったのを覚えています。

私は23年間薬学部へ所属していましたが、初期の頃は、現在の様に実務実習やCBT、OSCE等もありませんでしたので、学生さん達も今より時間に縛られず、全体に自由な雰囲気がありました。そのせいか、2年生の時から、研究をしたいと教室を訪れてくる学生さんもいて、私も、そんなに年の違わない、やる気のある学生さんと一緒に実験出来たのが楽しい思い出になっています。また、薬学部が4年制のときには、卒業前に研究発表も行っていて、その準備等で頑張っていた学生さんの姿も懐かしく思い出されます。その後大学院生の指導もするようになりましたが、上記の教室に来られた学生さんの研究のみならず、2年生後期の学生実習に対する指導の過程で、自分の伝えたいものを受け取ってもらえるということが、自分のやりがいにも繋がり、逆に私の方も学生さんから随分エネルギーをもらっていたような気がします。当時より今になって、改めてその時間の貴重さを感じています。

私はその後、平成10年に薬学部から全学教育を担う基礎教育部へ異動になりました。ところが、3年後には基礎教育部が解体されて、再び薬学部の所属になり、その8年後には所属が大学教育センターとなり、そこから薬学部へ出向する形になりました。このように在籍する部署はいろいろ変わりましたが、どこに属しても、基礎教育を担当する以上、ど

の学部の学生に対しても、等しく自分が教えている化学について、少しでも解って面白いと思ってもらいたくて今までやってきました。定年に伴って、研究室の後片づけをしていたところ、学生さんの私の授業に対するアンケート結果が出てきましたが、「授業の進み方が早くて難しい」という意見が結構ありました。私は、化学の基本的な考え方から、それをどう実際に使っていくかという所までを話したかったし、ただ、これだけ覚えていればいいというのではなく、ここまでは勉強して欲しいという目標を示

すことも教員の役目とっていたので、どうしても15回の授業回数の枠内に収まらず、詰め込みになってしまったような気がします。学生さんにとっては、一寸押しつけがましいような授業になっていたような自覚もありましたが、どうぞお許してください。

最後になりますが、今改めて、多くの教職員の皆様と学生の皆さんに支えられて、この40年間を過ごして来られたと感じております。改めて皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後のさらなるご活躍と、本学の発展をお祈り申し上げます。

新任教授からのご挨拶

「教授就任にあたって」

平成26年10月1日付けで辞令をいただいてから半年あまりが経過しました。

今年が平成17年に北海道医療大学へ着任してからちょうど10年目となる節目でもあり、あまりにも早い時の流れに驚かされます。



私は大学卒業の後、臨床医を目指して循環器内科に入局しましたが、当時の主任教授 安田 寿一先生のお勧めで、研究グループの一つであった川口 秀明先生の下で心臓に関わる基礎研究を始める事になりました。当時はまだ自分の中で研究の意味やその位置づけがあいまいで、このまま実験を続けていても良い物かどうか悩んでいた時期でもありました。しかしある日川口先生から突然留学のお話をいただき、住む場所も決めないまま文字どおり鞆一つで出発しました。今思い出しても無謀としか思えない出来事でしたが、意外なことに先方の研究室で目にしたのは、医療と研究が当たり前の様に絶妙なバランスで支え合っている姿であり、この経験が今日の私の日常にそのまま結びつくこととなりました。帰国後は別な講座の主任教授となっておられた川口先生の下で再び研究を始めましたが、その様な中で遠藤泰先生（本学実務薬学講座教授）が当時所属されていた講座の学生さんと一緒に実験のことで訪ねて来て下さったり、その後からは本学の大学院生が研究

薬理学講座・病態生理学 飯塚 健治 教授

に来て下さるなど、当時はまったく意識していませんでしたが今から思えば北海道医療大学とのご縁が少しずつ広がっていたのかもしれない。南勝先生（本学名誉教授）や川口先生のお勧めで、平藤雅彦先生（本学薬理学講座教授）の教室でお世話になることが正式に決まったのはそれから間もなくの事でした。

病態生理学教室は、初代 井出 肇先生（本学名誉教授・北海道医療大学病院内科）がまさに紙一枚鉛筆一本も無い中からその礎を築かれた講座で、その後を引き継がれた富樫 廣子先生がさらに9年の歳月をかけて現在の形にまで発展させてこられました。薬学部で一番新しい講座ではありますが、もう少しで20周年を迎えようとしています。積み重ねられた教室の歴史を振り返るとき、多くの先生方や大学院生そして学生さんの思いやこれまでの努力を大切にしなければならないと思います。薬学部では6年制の完成後まだ間もないこの時期に今度はコアカリキュラムの大幅な変更が行われ、その第1期生が間もなく入学してきます。本学の諸先生、講座の柳川 芳毅先生や平出 幸子先生とともに一人でも多くの薬剤師を輩出すべく努力して参りたいと思いますのでご指導とご支援の程を心よりお願い申し上げます。

最後に、同窓会の益々の発展と会員の皆様のご健勝をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

「教授就任にあたって」

生命物理科学講座・薬品分析化学 村 井 毅 教授

平成26年10月1日付にて薬学部教授を拝命しました。慣れないことばかりで毎日、右往左往しておりますが、瞬く間に半年が過ぎました。これまで皆様から頂きました叱咤激励に御礼申し上げます。北医療薬の皆様にご挨拶を兼ねまして教育・研究の抱負を述べさせていただきます。



私は本学薬学部の13期卒業生です。現在の当別キャンパス周辺は、私が本学を卒業した頃（およそ25年前）と大きな変化はなく、のどかな田園風景が残されておりますが、薬学をとりまく社会情勢は大きく変わりつつあります。平成18年度より導入された薬学6年制教育は、平成23年度に完成を迎え、本学においても昨年度、4期目の卒業生を医療現場へと送り出しました。現在、日本の薬学教育は大きな変遷期にあり、本学の教育にも様々な工夫が必要とされております。現代社会における保健・医療・福祉では個々の人に最も適したケアが求められており、複数の専門職人からなる多職種連携が要求されております。とりわけ、医療チームの一員としての薬剤師に対する社会的要請は今までになく高レベル化し、より高い能力を持つ薬剤師の育成が求められております。高度医療化が進む現在、臨床薬学的な指向はこれまで以上に強く要求されており、薬剤師のみならず薬学部教員への社会的要請はより多様化し、その責任も重要となっております。私は薬学教育に携わる者の一員として、薬学生が大学で学ぶ限りの知識、技術を身につけ、学生自らがそれ

らを駆使してより高度な医療、研究に発展させることが出来るような教育を行うことが重要と考えております。私は、本学薬学部で薬学を学ばせて頂きました。本学で学んだ経験を、教育・研究を通じて学生に伝え、臨床現場あるいは研究の場で活躍できる人材育成を行って参りたいと思っております。

私はこれまで藤間 貞彦先生（本学名誉教授）、黒澤 隆夫先生（現本学副学長）のご指導のもとで胆汁酸をメインテーマとして研究を進めて参りました。現在は「胆汁酸の微量分析法の開発及びその体内動態の解明」をテーマに研究を進めております。胆汁酸は、他のステロイド化合物と同様に生体内で生合成されるためその体内動態は生体の機能とりわけ肝機能に密接に関連しています。特に病態との関係を明確にすることは薬学領域において、医療に貢献できる研究テーマと考えております。将来的には、異常胆汁酸を指標とする各種胆汁酸生合成異常症の早期鑑別診断法の確立、肝機能診断法の確立を目指しております。また、胆汁酸はコレステロールの主要代謝産物であるので、各種病態時の胆汁酸生合成の経路をより明確にし、脂質代謝をコントロールするような創薬へと繋げることを目標にしております。

今後も北医療薬の皆様ならびに本学の諸先生方のご指導を頂き、有能な人材の育成を目標に教育・研究に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



支部だより（日胆支部）



この度、同窓会17番目の支部として胆振・日高管内に勤務、居住される卒業生の皆様へお声掛けし、日胆支部設立の運びとなりました。

今回はサンルートホテル室蘭（室蘭市）において

日胆支部 18期（生化学教室） 中 村 亨 一 さん

平成26年11月15日（土）に開催いたしました北医療薬セミナーと設立総会、懇親会についてご報告いたします。

【北医療薬セミナー】

16時30分より始まりましたセミナーは佐々木 諭



先生（2期）を座長に一般財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター副所長・総務部長で北海道医療大学薬学部同窓会長の田中 稔泰先生を講師にお招きして30名が聴講するなか、「公衆衛生と薬剤師」という演題でご講演いただきました。

講演の前段では、現在の大学の状況、音別キャンパスでの思い出、大学入試や入学者数、薬剤師国家試験の合格率など卒業後なかなか聞くことの出来ない今の大学の状況や、懐かしい話をしていただき参加者一同興味津々の様子でした。本題の公衆衛生については公衆衛生検査センターへ勤務することとなった経緯も交え、センターの機器や業務内容の紹介、震災後の放射線量測定依頼の対応状況、健康食品の有効成分の表示量とのばらつきの問題などを詳しくご紹介いただきました。質疑応答ではやはり懐かしい話に接して大学の質問も多く出ましたが、定刻となりましたので続きは懇親会でとのことで終了いたしました。

【設立総会】

セミナーに引き続き第1回目の定期総会を開催いたしました。はじめに発起人を代表し山田 達生先生（2期）より支部設立となった経緯も含めごあいさつをいただきました。

議長には京野 大介先生（14期）を選出し、出席者30名、委任状26名の定足数確認の上、議事に移りました。



議事を順調に進行し、次回総会と北医療薬セミナーは苫小牧市で開催することを決め議案全てをご承認頂きました。

選出された役員は下記の通りです。

支 部 長：山田 達生（2期）
副支部長：佐々木 諭（2期）
副支部長：寺口 元（6期）
副支部長：中村 亨一（18期）
幹 事：川口ルミ子（6期）
幹 事：吉田 嗣（7期）
幹 事：岩崎 忠昭（19期）
幹 事：加藤 ゆか（26期）
会 計：遠山 正史（20期）
監 査 役：福澤 祐一（8期）
監 査 役：深山 義敬（12期）
事務担当者：水谷 一寿（12期）

【懇親会】

懇親会は和やかな雰囲気の中始まり、乾杯のあと美味しい料理を味わいながら出席者の交流を行いました。やはりといますか1ヶ学期卒の先輩方には圧倒されつつも、途中には記念撮影やスピーチで大変盛り上がりしてきたところでしたがお時間となりましたので副支部長の寺口 元先生（6期）にごあいさつをいただき一旦中締めと致しました。

更に、二次会へ移動し学生時代の楽しい思い出話は続き、三次会では室蘭やきとりに舌鼓をうち、締めには二次会でホテルへ帰ったはずの田中先生も再合流し、これまた有名な室蘭カレーラーメンを堪能し、お開きとなりました。

今回初めてお会いする先生方も多く、はじめは若干緊張もしていましたが、次回の苫小牧開催がとても楽しみとなる室蘭の夜を満喫した楽しい懇親会でした。

今回の日胆支部設立にあたりましては事務局を担当していただいた水谷 一寿先生と（12期）と会計

担当の遠山 正史先生（20期）に大変なご尽力を頂き心より感謝いたします。また山田支部長を始め役

員をお引き受けいただいた先生方にも重ねてお礼申し上げます。

卒業生からの近況報告

第35期 薬剤学講座・薬剤学 石丸 竜 大さん

私は現在、札幌市内の調剤薬局、時計台薬局平岸店で勤務しております。薬学部6年制の一期生として社会にでてきた私ですが、早いもので本年度より薬剤師4年目に突入します。



急性期から慢性期、産まれたばかりの赤ちゃんから延命治療で抗がん剤治療を受ける患者さままで幅広く接しております。患者さまやそのご家族の立場になると一喜一憂することはありますが、自分が薬剤師としてできることは何か考え、寄り添う姿勢で医療提供をしております。患者さまからの思いがけない質問で勉強の機会を与えてもらうこともあります。カルテを見ることの出来ない分、患者さまとのやり取りから様々な情報を得る必要があるため、コミュニケーションの重要性も肌で感じております。

また、処方箋調剤だけではなく、医薬品の製造として薬局製造にも取り組み、OTC販売を含めセルフメディケーションにも寄与しております。最近では、当薬局でもHbA1cの測定だけに来られる方もおり、地域医療を担う場所として今後も活動していきたいと考えております。処方箋調剤、薬局製剤、検体測定、在宅医療など様々な角度から医療に従事し日々研鑽をしております。

そんな私の学生時代は、サークルにアルバイト、遊びに勉強、どれも全力でした。そして5年次の長期実務実習を受けるまでは、将来は病院薬剤師になるのだと漠然と思っていました。院内のチーム医療やベッドサイドでの患者さまとのコミュニケーションに憧れていたからです。しかし、病院、薬局それぞれ11週間の実務経験を終えると薬局薬剤師を選ぶ自分がいました。病院での実習も面白く、コミニカルな医療提供、医師と処方検討する薬剤師の姿を見て、本当素晴らしくやり甲斐を感じられまし

た。では、なぜ薬局を選んだかということ、患者さまとのやり取りで薬局の方が私にとって楽しく感じられたからです。患者さまにとってのかかりつけ薬局になれば、頻回にお会いでき病状の経過を追うことができます。そして、患者さまが心を開いてくれる過程に喜びを見出したからです。状況によっては、患者さまと会話する時間は短くなることもありますし、患者さまのニーズを考えて対応もします。しかし、その短い時間の中でも薬剤師としての責務を果たし、患者さまが笑顔になった時や、治療に前向きになってもらえた時、感謝のお言葉を頂いた時は薬剤師冥利につきると思えばモチベーションにもつながります。薬局薬剤師の魅力だと感じております。また、かかりつけ薬局になれば特定の医療機関の処方箋だけではなく、様々な医療機関の処方箋も触れることができるのも魅力の一つだと思います。

私があと一年早く生まれ4年制の薬学部に進学していたら、おそらく病院薬剤師の道に進んでいたと今でも思い、不思議な気持ちになります。6年制で長期実務実習を受けることは、臨床に強い薬剤師の育成と言われておりますが、病院、薬局、それを支える卸や製薬会社なども学び、各々の職種への理解を深め、自分の進むべき道を見極める点でも非常に有意義であったと感じております。現状、私は自分の選んだ道に誇りをもっていますし、自分とは違う道を歩んでいる方を尊敬もしております。

医療はサービスの一つではありますが、レジャーや飲食産業などと比べ、喜んで受けるものではない分、負のサービスだと感じております。そのため、患者さまを取り巻くすべての医療人が努力し、患者さまが少しでも不安な気持ちを解消できるような、安心して家路についてもらえるような医療を提供できればよいと願い、私もその一人として奮闘しております。

まだまだ未熟者ではありますが、学生時代に苦楽を共にした仲間と仕事の話をお互いに交わす時は、少しは成長できたのだと実感しております。周囲には魅力のある人がたくさんおられます。多くの方からたくさん刺激をもらい、更なる成長ができるよう今後も

前進していく所存です。体が資本であるため、心身の健康を自ら図ることも大事だと思い、プライベートではゴルフやスノーボード、アウトドア、家族とのたわいも無い会話を大切にして日々過ごしております。

在学生からのメッセージ

薬理学講座・薬理学 小原 和さん

薬学部39期生の小原和です。このような機会を頂きましたので、少しでも在学生の日常をご紹介します。

わたしは小学生の頃からずっと剣道を習っていましたので、大学でも剣道部に所属しています。講義が終わったら道場へ行き、先輩方の指導を受けながら稽古に励んで参りました。皆さんの記憶にも残っていると思いますが当別の冬は厳しいです。冬の当別での稽古は本当に泣きたくなるほど寒いのですが、その後に先輩に連れて行ってもらえるご飯やお酒がたまらなく美味しいのです。その成果があったのか、全日本薬学生剣道大会で女子個人・団体で入賞する事が出来ました。

また、5年生になり、約5ヶ月間に渡る病院・薬局での実習がありました。初めて経験する薬剤師の現場ですから実習の当初はとても緊張していましたが、病院でも薬局でも北海道医療大学薬学部OB・OGの皆さんの存在がとても心強く、実のある実務実習を行う事が出来ました。患者さんのために薬剤師として最善を尽くす先輩方の姿は、将来目指すべき薬剤師像そのものでした。

現在は薬理学講座で、研究の結果に溜息をつきな

が卒業研究を進めています。先輩方の実験ノートを開くと、薬剤師として働く皆さんが薬学生として同じ時間を過ごした事が感じられて、なんだか頑張ろうと思えます。

入学した時には長い6年間が始まると思っていましたが、時間が過ぎるのはあっという間なもので、試験の合否に一喜一憂している間にもう最終学年になろうとしています。国家試験に無事に合格し、皆さんの仲間入り出来るように悔いのない1年を過ごしたいと思っています。就職は出身である青森で行おうと考えていますが、東北での活動が北海道医療大学薬学部同窓会のより良い発展に貢献出来たら幸いです。

最後になりますが、北海道医療大学薬学部同窓会がますます繁栄することを願ひまして、在学生の挨拶を終わらせて頂きます。



卒業研究中、友人とともに。筆者・上

薬剤師支援センター 将来ビジョン講座について

「薬剤師支援センター 将来ビジョン講座を薬学部同窓会として企画・開催」

第13期 北医療薬理事 井藤達也

北海道医療大学では、以前より薬剤師支援センターにおける認定薬剤師制度の薬剤師研修講座をいくつか領域ごとに継続して開催してきました。その

ような中で薬学部の同窓会として1つの講座を企画して欲しいという要望が薬剤師支援センターよりありました。そこで、平成26年度の開催に向け薬学部

同窓会の有志が集まり、ワーキングを立ち上げました。まず企画するにあたり参加者の対象を薬局薬剤師とするか、病院薬剤師にするかの議論となりました。病院薬剤師が興味のある専門薬剤師については、すでいくつかのテーマが企画されていること、病院薬剤師会としても各種認定薬剤師講習会を開催していることなどから、同じテーマで開催するより、薬局薬剤師が今後関わっていく機会が多い「在宅」をテーマとして取り上げてはどうかということになりました。開催形式としては、初めの3回は座学で講義形式、場所はサテライトキャンパスの入っているACUにて開催となりました。そして最後1回をグループワーク形式で参加者が自由に意見を言うように、時間も長めにとって土曜日の午後に本学当別キャンパスにて開催することとなりました。そして講座名は「将来ビジョン講座」、テーマは『時代遅れの薬剤師にならないために』と決定しました。

第1回は平成26年7月2日(水)、講師にファルメディコ株式会社 代表取締役社長の狭間 研至先生をお呼びして「共同薬物治療管理 ～医師と薬剤師の新たな連携～」をテーマにご講演いただきました。狭間先生は、医師として在宅医療を行っているとともに、実家の薬局開設者として薬局経営に携わっております。薬剤師教育6年制への移行、調剤報酬の在宅へのシフト、薬剤師の病棟常駐など薬剤師を取り巻く環境は大きく変わっているなかで、医師の視点から薬剤師への提言がありました。超高齢化社会を支える次世代型の薬剤師について、在宅医療を含む新しい地域医療と薬剤師のかかわりについて経験事例を交えて講演されました。講演会には多くの薬剤師を目指す学生も参加していたことから、先生

は今学んでいることとこれから将来への繋がりについての大切さを紹介し、学生にエールを送られました。

第2回は平成26年8月6日(水)、講師に医療法人孝佑会 ごう内科クリニック院長 鈴木 郷先生をお呼びして「在宅医療における多職種連携」をテーマにご講演いただきました。導入として、一般にはあまり知られていない在宅医療の歴史について触れ、演者の鈴木先生が在宅医療と出会ったきっかけ、現在活動をするに至った経緯、在宅医療の課題・問題点、在宅医療を取り巻く医療制度について順次説明され、国の政策として入院医療から在宅医療へ大きくシフトしていく現状を詳しく解説されました。その中で重要性を増す在宅医療の他(多)職種連携、特に薬剤師の役割と連携の重要性について、薬剤師が実際に関わった例をあげられ、薬剤師が在宅において欠かせない存在であることが述べられました。最後に在宅医療が進むなかで今後、受け皿が不足し在宅難民が出るのではという懸念も指摘されました。在宅医療に薬剤師が関わる上で医師の立場からの指摘や貴重な意見が聞かれ、非常に参考となる内容でした。

第3回は平成26年9月3日(水)、講師に本学6期卒業生で株式会社 オオキタ 代表取締役 大橋 得二先生をお呼びして「地域医療で責任をはたせる薬剤師」をテーマにご講演いただきました。まず初めに医薬分業についての世界的な歴史や、日本の薬剤師行政の遍歴について説明をされました。次に、沖縄県北部地区薬剤師会 会長として携わられた薬事会館建設や行政・会員に対しての折衝事案など、ご自身の経験を交えて、在宅医療の現状やその問題点に



ついて解説いただきました。最後に、これからの地域医療で求められる薬剤師やかかりつけ薬局の重要性についてお話しいただき、とても有意義な講演となりました。

第4回は、砂川市・滝川市において在宅でご活躍されている、本学12期卒業生でそらちぶと調剤薬局福地 隆康先生をお呼びして「今、働いている地域医療に関心はありますか？ 地域医療に必要とされる薬剤師を描けますか？」というテーマで、導入のご講演をいただいたうえでワークショップの開催となりました。ワークショップの性質上、予めグループ分けが必要ということで事前に参加者を募っての開催となりました。これまでの座学とは違い、実際

に在宅に取り組んでいる同窓生を各グループのファシリテーターとしてお呼びしたこともあり、各グループでは在宅に関する疑問や問題点等の多くの意見が出され、それらに福地先生がお答えするなど、ワークショップならではの活発なディスカッションができました。

平成26年度は、以上の4回にて終了いたしました。平成27年度は同窓企画として新たなテーマを加えての開催を予定しております。同窓生の皆様のご参加お待ちしております。

ワーキングメンバー：

浜上 尚也、桂 正俊、櫻田 渉、門間 康成、木村 治、井藤 達也（以上6名）

2015年度オープンキャンパスのご案内

今年度も北海道医療大学オープンキャンパスが開催されます。

日時

6月21日(日)・8月7日(金)・8月8日(土)・9月12日(土)

※いずれの日程も11:00~16:00まで

内容

●大学概要説明

2015年度入試結果及び2016年度入試概要について説明を行います。

●学内施設見学

興味のある学部・学科に分かれて施設見学を行います。

●体験実習または模擬講義

興味のある学部・学科に分かれて行います。

●保護者ガイダンス

●個別進学相談

※ランチ付き

オープンキャンパスに関するお問い合わせは入試広報課まで

E-mail: nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

第7期生卒業30周年記念祝賀会

第7期 高市和之さん

2014年7月20日(日)に7期生の卒業30周年記念同窓会が無事終了した事をご報告いたします。

本同窓会の準備は昨年の8月お盆時期の同期数人の飲み会から始まりました。参加した吉田 嗣氏より6期の先輩から一万円を預かった話題からです。以前より風の噂で卒後30周年を記念して毎年同窓会を行っているとのことでしたので、とうとう我々7期生に降りてきたのかと、しばし感慨に耽った我々でした。誰を代表に行うのか、いつどこを会場に行うのか、連絡は…など多くの懸案が浮かんでまいりましたが、やる事に関しての意見は一致しており、翌月には私高市が幹事代表となり、実施日と開催ホテルは歴代に習い7月20日、日曜日、札幌京王プラザホテルで開催といたしました。

多くの方にご出席いただく為に、前年の10月に翌年の7月に同窓会を行うプレ案内を発信しました。この連絡は同期の田中直輔氏の田中直染色店店舗広告付として案内が出来ましたことを感謝いたします。正式には5月に往復ハガキにて出欠の確認を行い集計しました。ここで力が入ったのが幹事の久保田明美氏と岡本里絵子氏です。返事の遅い方などに対して電話攻勢を掛けることを提案し、参加者の増員を図ったのです。特に6期生の参加が60名前後と聞いてこれを上回る人数を目標に掲げたのです。この威力により今回は沖縄からも含めて80名の参加となりました。

同窓会当日には会合前に大学の見学会を予定し、



参加者18名にて植物園見学を中心に実施いたしました。札幌駅に集合しJRにて大学前駅に移動し、休日にも関わらず事務の方の案内で薬学部校舎及び食堂や新講義棟(10階のカフェテリアは絶景)を見学した後に植物園を案内していただきました。多くの施設が卒業後に建てられており、また古い講義棟も内部が改装されており懐かしいやら驚くやらの見学でありました。案内時にサプライズとして7期生の入学時の学校紹介パンフや入学式や卒業式の学内誌掲載コピーなどを頂くことが出来たことで、当時の学園の雰囲気分かり一層の懐かしさを覚えた次第であります。当日の同窓会の前後にはこれだけでなく、有志による女子会やゴルフコンペなどが企画された模様です。

ホテルでの同窓会は、受付は佐藤 宏幸氏、眞鳥考史氏、菅井 真実氏、中川 仁美氏が担当。同窓会開始前、まずは素面のうちに全員で記念写真を撮影し、その後は司会の吉田 嗣氏と村上 由美氏の進行により代表の挨拶、田中氏の乾杯と共に始まりました。30年のタイムラグを埋めるのにはしばし時間がかかり、名札は必須。膨らんだ人、萎んだ人など多様で、「あれは誰だ」と云った会話があちこちのテーブルで囁かれたのも確かであります。参加者には記念品として「オリジナル手拭い」を田中氏指導のもとデザイン鈴木 ゆかり氏、宇沢 広之氏の協力により作成し配布しました。旧東日本学園大学の校章と実験器具が染め抜かれ懐かしさにまた盛り上がり



おりました。その後の歓談時には幹事の力作、80年代の歌謡曲と共に坂本 英文氏作成の卒業アルバムスライドの上映で教室毎に紹介すると共に起立してもらい30年の時を目で確認していただきました。さらに音別校舎の近況、当別町の近況などのスライド、また1986年製作の大学紹介のPVも上映し、80年代の学生風俗に感動し、あっと云う間に時間となりました。最後は水谷 有三氏の乾杯で中締め、2次会

に会場を移して、その後も深夜まで旧交を温める楽しい同窓会となりました。

最後に同期会の連絡先の確認など情報提供などで協力いただいた北海道医療大学同窓会、及び見学会で協力していただいた北海道医療大学薬学部事務の方に感謝申し上げます。また来年に向けて8期生の代表に6期から受け継いだ「引継ぎ料」一万円をお渡しした事も併せてお伝えいたします。

新入生オリエンテーションへの同窓会参加

4月9日・10日に薬学部の本年度入学者176名を対象とした新入生宿泊オリエンテーションが定山溪ビューホテルにて開催されました。田中稔泰同窓会会長をはじめ本学の同窓会関係教員も参加し、本学職員や新6年生と共に同窓会共催イベントとして講演会とゲーム大会を実施しました。講演会では、本学第2期卒業生の山田 達生氏（洞爺協会病院薬局

長）に「地域の病院で薬剤師として出来ることその喜び」との題でご講演をして頂きました。引き続き行われたクラス対抗でのゲーム大会はとても盛り上がり、新入生同士や新入生とクラス担任との交流を深めるための一助となれたのではないかと感じました。



第36回 北医療薬 総会および懇親会のご案内 (医療薬学セミナーのご案内)

第36回 北医療薬 総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。総会は同窓会発展のために皆様からのご意見を頂戴し、活動方針について審議いただく貴重な機会です。多くの皆様にご参加いただき、ご意見を賜りながら、親睦を深めていただきたく思います。是非、お誘い合わせのうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

総会終了後、北海道医療大学 薬学部 村井 毅教授（本学薬学部 13期卒）を講師に迎え医療薬学セミナー（札幌支部主催）を開催いたします。

記

日 時：平成27年6月20日(土)

【北医療薬 総会】 17時00分

【札幌支部 総会】 17時45分

【医療薬学セミナー】 18時00分

北海道医療大学 薬学部 村井 毅 教授

「LC-MS/MS法を用いた薬物分析－胆汁酸の動態解析への応用－」

*札幌支部主催ですが、どなたでもご参加いただけます。

*北海道医療大学薬剤師支援センター認定研修（1単位）です。

【懇親会】 19時30分（セミナー終了後）

会費：3,000円（当日申し受けます）

会 場： 【総会・セミナー】

北海道医療大学札幌サテライトキャンパス

札幌市中央区北4条西5丁目 TEL (011) 223-0205

【懇親会】

ホテルKKR札幌

札幌市中央区北4条西5丁目 TEL (011) 231-6711

*出欠席のご回答は、[同窓会ホームページ](#)（北海道医療大学 → 薬学部 → 同窓会）で6月10日までにお知らせください。

同窓会ホームページ：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>

本年度より、はがきでの返信は行いません。

編集後記

今年は桜の開花がいつもより早いようです。時代の流れのみならず桜までとは、、、、
薬学や薬剤師を取り巻く環境もハイスピードで変化しているのに、せめて桜前線ぐらい
ゆったりとのんびりといかないものだろうか・・・・・・ (S.K.)